

2/15
2013年第1130号
(毎月5、15、25日発行)

協会・保団連

衆院選後の国会へ要請 「社会保障こそ成長戦略」訴える

緊急院内集会に100人超



緊急院内集会で医療改善を訴える住江憲勇 保団連会長（正面奥）＝1月24日、議員会館

安倍内閣は「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を1月11日に、15日には2012年度補正予算案を閣議決定した。補正予算案には70〜74歳の窓口負担の軽減措置が盛り込まれたが、負担割合の1割から2割への引き上げは段階的に進めるとしているほか、生活保護基準の引き下げも強行されようとしている。

このような情勢のもと、保団連は自公政権誕生後初めての国会要請行動を1月24日に実施し、18協会から84人が参加した。協会の古田光行・宮本辰雄両監事は、大阪選

出の新議員を中心に国民

・患者の立場に立った13年度の政府予算編成と医療税制の存続・改善を求めて要請した。

住江保団連会長があいさつ

同日午後からは保団連はじめ6団体が参加する医療団体連絡会議（医団連）が緊急院内集会を開

催し、国会議員・マスコミを含め100人が集まった。

通常国会を前に住江憲勇保団連会長は「安倍政権の経済政策は金融緩和による2物の物価上昇を掲げているが、賃金カットと雇用破壊の問題が解決されなければ国民のいのち、健康、生活は成り立たない。社会保障こそ成長戦略だ」とあいさつし、社会保障の拡充による生活と経済の立て直しを訴えた。

要請議員一覧

【秘書対応】

衆院〈自民〉とかしきなおみ、北川知克、中山泰秀、大塚高司、左藤章、原田憲治、竹本直一（維

新）浦野靖人、遠藤敬、馬場伸幸、西根由佳、上西小百合、木下智彦、西村眞悟、西野弘一、丸山穂高、〈公明〉北側一雄、佐藤茂樹、伊佐進一、國重徹、浮島智子、〈共産〉宮本

「高点数は悪ではない」指導の傾向と対策を学ぶ

指導の傾向と対策を学ぶ

社保研究部

指導に備え、カルテ記載を。社保研究部は

「高点数は悪ではない」と語る安積中氏（正面奥）＝1月26日、M&Dホール

大阪市北部・東部地区



救命講習を開く

心肺蘇生とAEDを実習

大阪市の北部と東部地区は合同で「普通救命講習」を1月26日、保険医会館で開き、28人が心肺蘇生とAEDの使い方を実習した（写真）。講師は浪速消防署の救急救命士。医療安全の指針の研修として位置付ける医院も多く、真剣に取り組んでいた。



「高点数は悪ではない」と語る安積中氏（正面奥）＝1月26日、M&Dホール

別指導でも請求内容に不備がある場合は自主返還を求めるようになったこと

注意を促した。指導に備えて、診療内容の向上に努めカルテに付随する物を整備しておく。歯科衛生士業務記録簿や技工指示書については、開業時からそろえておくことが大事だと強調した。個別指導にあたっては、指導時の録音や弁護士帯同を活用してほしいと話した。

患者への領収書とレセプト点数の相違から不正請求を疑われて通報された事例や、支払基金などによる支払審査での「突合・縦覧点検」が実際にどのように実施されているかを説明した。集団的個別指導にあたり、子も手当が治療費に充てられることもなく、改善されないままの子どもがいます。このような子どもたちの実態を放置せず、一刻も早く歯科受診できるようにする必要があります。

治療率5割の衝撃

学校歯科治療調査報告②

歯科検診で要受診と診断された児童のうち50・2%が歯科医療機関を未受診であるという調査は大変な驚きであった。しかし、さらに驚くべきは、そうした未受診の児童の中に乳歯がすべてむ

一人当たりの歯数は、一人ひとりの疾患の深さ、重症度まで知ることができない。協会が実施した「学校歯科治療調査」には、こ

61校の養護教諭が、経済的な理由で歯科治療を受けることができず口腔崩壊を起した児童に「会ったことがある」と回答

「一人や二人ではなく、けっこうしています。本数が多くてひどいむし歯状態の子ほど治療にいかれることもありません。」「母が家庭が多い。母親も働いて生活にせいっぱいの子が多い。」「年々、口腔内の状態がひどくな

経済的理由で「口腔崩壊」

養護教諭の4割が遭遇

「高点数」ではなく、「高点数」ではなく、診療した内容については堂々と請求すればよい。ただし、きちんと診療をしていてもカルテ記載がなければ通用しない。日常のカルテ記載が大切であり、高点数は悪ではないという運動を起していこうと呼びかけた。

3〜6面に特集「2012年分所得税確定申告の手引き」を掲載

歯界

東京オリピックの招致に熱中している最中に柔道界に不祥事が発覚した。一向に改善の兆しがない一連のスポーツ界の体罰、暴力の問題である。思い切った方策が必要であるのに識者という愚衆たちから多彩な議論は出て名案が出ない。

日本は国際柔道連盟の会長選に勝つてせぬのに、まだお家芸や国技だとか妄言を弄して欧州勢の後塵を拝している。日本の柔道界に今必要なのは欧州など競技人口比率での柔道先進国から学ぶ姿勢である。具体的な提言をしておく。監督、コーチ、運営者などを先進国から招聘すべきである。相撲も国際化して改善の兆しが見え日本の伝統が受け継がれそう。サッカーや野球では監督やスターが外国人で何の違和感もない。やくざ組織みたいな上下関係による卑怯な暴力がまた日本社会の至る所に現存している。それを払拭するのに元来フェアー精神を旨とするスポーツの役割は少なくない。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。（郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください）